

生体部分肝移植術後にレシピエント側肝動脈に 発生した偽性動脈瘤の1例

野田 尚孝¹⁾ 乗富 智明¹⁾ 山本 希治¹⁾
山内 靖¹⁾ 森重 徳継²⁾ 田代 忠²⁾
山下 裕一¹⁾

1) 福岡大学医学部消化器外科

2) 福岡大学医学部心臓血管外科

要旨：肝移植手術における肝動脈偽性動脈瘤はまれであるが死亡率の高い合併症である。症例は36歳の女性。Wilson病による末期肝硬変に対して生体部分肝移植を施行した。移植術後28日目と30日目に腹腔内出血を来し開腹したがいずれも出血源は不明であった。40日目の腹部超音波検査で肝下面に長径3.4cmの偽性動脈瘤を認め、増大傾向を認めたため63日目に開腹血腫除去と肝動脈壁縫合閉鎖術を施行した。出血点は移植時の肝動脈吻合部と一致しないレシピエント側の動脈壁であった。術後経過は良好で修復術後70日目に軽快転院となった。偽性動脈瘤発症後の注意深い経過観察と詳細な画像評価をおこなうことで、血管修復術を安全に遂行することができた。

キーワード：生体部分肝移植, 偽性動脈瘤, 肝動脈合併症, 腹腔内出血